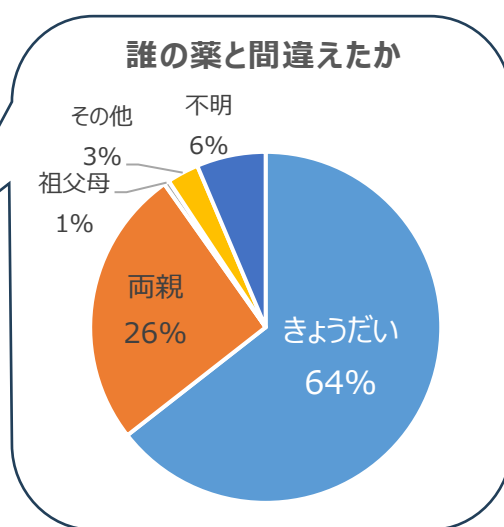


子どもに薬を飲ませる際の事故に注意しましょう！

子ども（特に5歳以下）に薬を飲ませる際に、薬の種類や量を間違えてしまう事故が多く発生しており、中毒110番でも頻繁に相談が寄せられています。以下の事故状況を参考に、家庭内での薬の飲ませ方や保管方法を一度見直してみましょう。

子どもに薬を飲ませる際の事故
(2023年、5歳以下、n=855)

事故状況	件数
別の人の薬を飲ませた	408件
同じ薬を2回飲ませた	138件
1回量を多く飲ませた	131件
1日の投与回数を間違えた	59件
その他	119件



● 次のような相談があります。

「下の子に薬を飲ませる際、間違えて上の子の薬を飲ませてしまった。」

「母親が子どもに薬を飲ませた後、それを知らない父親がもう一度同じ薬を飲ませてしまった。」

「1回量が1/2包の薬を、一度に1包飲ませてしまった。」

「1日2回朝夕に飲ませる薬を、昼にも飲ませてしまった。」



● 事故防止のために以下の点に注意しましょう。

- ・薬を飲ませる前に、きょうだいや家族の薬と間違えていないか、1回量や1日の服用回数に間違いはないかを確認しましょう。
- ・きょうだいや家族の薬と取り違えないように、保管場所を分けるなど工夫をしましょう。
- ・子どもに薬を飲ませた後は、飲ませたことを家族内で共有しましょう。



事故が発生し、医療機関を受診すべきか判断に迷った場合は中毒110番にご相談ください。

公益財団法人日本中毒情報センター 中毒110番電話サービス（一般向け 365日 24時間対応）

■ 大阪中毒110番 072-727-2499 ■ つくば中毒110番 029-852-9999

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター（本部事務局 電話：029-856-3566）の承諾を得、「公益財団法人 日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。